一般社団法人日本鉱物科学会
平成29年度　定時総会　資料

日時：平成30年9月20日（木）9:00～10:10
場所：山形大学　小白川キャンパス　基盤教育2号館221教室
（〒990-8650 山形市小白川町1-4-12）

開会宣言：

会長挨拶：

物故会員への黙祷：友成（ともなり）　才（さとし）　永年会員，　齋藤（さいとう）　洋彦（ひろひこ）　永年会員，
千葉とき子　名誉会員，　秋月（あきづき）　瑞彦（みずひこ）　永年会員

議長選出：（　　）　会員

定足数の確認：896名×10%＝90人以上
（　　）名（当日　　人＋委任状（書面・電磁）　　人含）

目的事項

報告事項

Ⅰ．平成29年度（一般社団法人第Ⅱ期）事業報告
（和文誌，英文誌編集，行事，広報，渉外，庶務，Elements，会員，その他）
Ⅱ．平成30年度（一般社団法人第Ⅲ期）事業計画書及び収支予算案などの件
Ⅲ．その他

決議事項

Ⅰ．第1号議案　平成29年度（一般社団法人第Ⅱ期）決算承認の件
Ⅱ．第2号議案　役員（理事、監事）選任の件
Ⅲ．第3号議案　会員会費規定の一部改定の件

授賞式

一、　日本鉱物科学会賞授与
一、　渡邉萬次郎賞授与
一、　日本鉱物科学会論文賞授与
一、　日本鉱物科学会研究奨励賞授与
一、　日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与
一、　櫻井賞授与
一、JMPS学生論文賞授与

資料

1　平成30年度収支予算(17頁)
2.　平成29年度決算報告書
　1)貸借対照表(18頁)　2)正味財産増減計算書(19頁)
　3)財務諸表に対する注記(20頁)　4)附属明細書(20頁)
3.　監査報告書(21頁)

報告事項

Ⅰ. 平成29年度事業報告　（一般社団法人第Ⅱ期　平成29年8月1日～平成30年7月31日）

会長挨拶

一般社団法人日本鉱物科学会が定款に定める事業の概要は以下のとおりである。

第4 条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 和文誌（岩石鉱物科学）、英文誌（Journal of Mineralogical and Petrological Sciences）、その他の冊子版、電子版による発行

(2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催

(3) 研究の奨励及び業績の表彰

(4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

平成29年度は一般社団法人日本鉱物科学会として第II期の事業報告になります。

会員の皆様もご存知のとおり，平成28年9月30日に任意団体日本鉱物科学会は解散し，平成28年10月1日に一般社団法人日本鉱物科学会が発足しました。第Ⅱ期を終え、皆様のご協力のもと、お陰様で法人として順調に学会事業を執行することができました。ここに改めて御礼申し上げます。

平成30年6月27日に、宇宙航空研究開発機構の小惑星探査機「はやぶさ２」が、探査対象天体である小惑星リュウグウに到達しました。本学会では、この快挙に対して声明文を送りました。2020年12月にはサンプルが地球に持ち帰られる予定となっています。本学会会員は少なからず「はやぶさ２」計画に携わっており、リュウグウ探査や、特に地球帰還後の試料分析に様々な鉱物学的側面からの貢献が期待されます。

社団法人化の記念事業の一環として，平成28年9月に「ひすい（ひすい輝石及びひすい輝石岩）」を国石として選定しましたが，この事業の関連事業として，JMPSに国石「ひすい（JADEITE AND JADEITITE）」特集号（112巻5号 October）が発行されました。さらに，山形大学での年会講演会終了後、平成30年9月22日(土)午後には、一般普及講演「日本の国石・ひすい」の開催を予定しています。また、本会監修の単行本『日本の国石「ひすい」―バラエティに富んだ鉱物の国―』の刊行も，関係各位の協力のもと進められておりますことをお知らせします。。

以下の個別の事業状況については，各業務を一任している各担当者から報告します。

（1）和文誌（岩石鉱物科学）、英文誌（Journal of Mineralogical and Petrological Sciences）、その他の冊子版、電子版による発行事業

【1】和文誌（岩石鉱物科学）編集報告 (長瀬和文誌編集幹事・理事)

1. 編集状況報告

(1) 発行状況：47巻2号 (7月25日発行済み) 原著論文1編，資料1編，日本新産鉱物情報，新刊紹介，学会記事掲載。
47巻3号 (10月末発行予定)：原著論文1編，資料1編，フィールド紹介1編，追悼文など掲載予定

(2) 現在査読中論文：1編

(3) 2018年9月19日(水) 12:00-12:30 GGK編集委員会を開催予定。編集委員の交代など検討する

＜岩石鉱物科学46巻3号，4号，47巻1号，2号（4号分）発行内容＞ (平成30年7月31日現在)

4 号分	件数	頁
原著論文	4 件	58p
短　報	0 件	0p
総　説	1 件	10p
資料・解説	7 件	60p
訂正	0 件	0p
新刊紹介	3 件	1.5p
ニュース(他学会案内等)		0.5p
投稿規定		3 p
学会記事 (理事会・総会議事録)		56 p
その他の記事		17p
追悼文		0p
総目次		2 p
広　告　3 件		2p
白頁		2p
今年度 4 号分合計 53p/号		212p
昨年度 6 号分合計 28p/号		168p

左記内容報告の様に，昨年度より若干投稿が増え，4 号発行になったこともあり，1 号平均 53p となった。

今後も会員の皆様の投稿をお願いいたします。

2. 編集委員会開催報告

(1) 2017 年 9 月 13 日(水)12:15-12:45 GKK 編集委員会報告（会場：愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟 S21 室）

<議題>

I. 報告事項　1. 編集状況報告，2. 編集委員の交代について

II. 審議事項

1. 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする件
検討する場合は，会計上の影響を少なくして，またJMPS編集委員会と同じ条件で検討する。(継続審議)

2. 投稿論文不足の件(継続審議)

(2) 2018年4月26日から　GKK編集委員会メール審議報告

2017年9月13日に開催したGKK編集委員会継続議案の掲載論文不足解消の一案として年会巡検報告書と会員依頼原稿についてメール審議を開催して，以下の2点が委員会として提案された。

＜審議事項＞

1. 規定がなかったフィールド紹介の記事の扱いの提案について
提案理由：１)本文の体裁は，「原著論文，短報，総説，解 説・資料，鉱物の分析・解析のコツと勘どころ，最近の研究から，討論」に準ずる。2)原稿の掲載頁制限は「d. 解説・資料」に準じ，8頁以内とする。3）査読の有無とレフェリー数は「鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ，最近の研究から」に準ずる。

2. 会員依頼原稿のページチャージ負担なしの件
提案理由：GKKの依頼原稿については著者が会員の場合にはページチャージを負担していただいているこのような状況では原稿を依頼する際に，著者への負担を同時にお願いしなければならなく，原稿を依頼しにくい状況にあります。依頼原稿を含

めて原稿を多く集める方策が必要な状況です。この一つの方策としてとして会員依頼原稿のページチャージ負担なしとすることを提案し，賛否を審議した。

3. 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする件

＜委員会提案＞

1. 「フィールド紹介」の記事の扱いについての委員会提案。
   1) 投稿規定の「3.本文の体裁」の中に加え，論文形式とすること。
   2) ページ制限は「解説・資料」に準じページ制限は原則8頁以内とすること
   3) 査読の有無とレフェリー数は「鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ」や「最近の研究から」に準ずる扱いとして，原則査読者による査読の審査はしないで，編集委員長による査読とすること
2. 会員依頼原稿のページチャージを負担なしにすることについての委員会提案

概ね賛成という回答があったが，出版費用の増加の心配あり。予算の範囲内であれば賛成とのことで結果8頁までは免除する。

なお，上記GKK編集委員会提案については，2018年5月19日第2回定例理事会で審議，承認された。

【2】 英文誌（JMPS）編集報告（平島英文誌編集幹事・理事）

1. 編集状況報告 (2019年7月31日現在)

(1) 今年度平成29年度(会計期間)発行状況:112巻2号(4月)～113巻1号(2月)発行完了。[表1]

[表1]112巻2号(4月)～113巻2号(4月)

(平成30年7月31日現在)

6号分	件数	頁数
Reviews	7件	75 p
Articles	23件	246 p
Letters	9件	44 p
Technical		
Editorial		1 p
Errata		
投稿規程		5 p
Index		4 p
Contents		4 p
白頁		1 p
	合計頁	380 p
	1号平均頁	63p

[表2] WEBシステム利用後の投稿数

Month	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
Jan	0	3	2	2	5	2	4	7
Feb	0	2	2	1	2	2	0	2
Mar	0	2	0	4	2	2	7	3
Apr	0	2	3	1	5	3	12	5
May	0	4	0	3	5	4	3	4
Jun	0	12	6	9	4	3	5	2
Jul	0	3	3	8	9	12	9	6
Aug	0	5	2	1	7	1	2	3
Sep	3	2	1	4	5	2	2	0
Oct	16	14	11	16	9	3	4	0
Nov	2	5	4	4	5	8	9	0
Dec	3	3	2	6	5	2	4	0
Total	24	57	36	59	63	44	61	32

国石「ひすい」特集号112巻5号(10月)JADEITE AND JADEITITEの発行により年間掲載予定頁360頁を超え380頁となった。

(2)平成30年度年度発行状況: 113巻2号(4月号)，3号(6月号)発行済

今後の発行予定: 113巻4号(8月号)最終印刷確認中9月中旬発送予定。113巻5号（10月号）掲載5論文予定

(3) 投稿，査読状況(2017年8月1日~2018年7月31日) [表２：月，年間別投稿数]

投稿50件，うち受理(15件)，査読中(8編) 返却中(8編)， 取り下げ(2編)，

Reject(17編) 海外：中国，エジプト，ドイツ，グルジア，イラン，ロシア，トルコ等）

(4) 2017 JMPS Impact Factor: 1.030（2016⇒0.409, 2015⇒0.648, 2014⇒0.742, 2013⇒0.656,2012⇒0.589）

How is Journal Impact Factor Calculated?

$$\frac{\text{Citations in 2017 to items published in 2015 (26) + 2016 (43)} \quad 69}{\text{Number of citable items in 2015 (33) + 2016 (34)} \quad 67} = 1.030$$

2006年からの JMPS Impact Factor推移

Year	Total Cites	Journal Impact Factor	Impact Factor Without Journal Self Cites	5 Year Impact Factor
2016	338	0.409	0.333	0.673
2015	298	0.648	0.478	0.738
2014	334	0.742	0.56	0.78
2013	280	0.656	0.578	0.726
2012	242	0.589	0.534	0.617
2011	239	0.607	0.476	0.781
2010	201	0.677	0.552	0.818
2009	195	0.697	0.578	1.046
2008	177	0.796	0.555	Not Available
2007	145	0.872	0.702	Not Available
2006	107	1.583	1.458	Not Available

2. Special Issue 特集号報告 (この号の表紙の色を，ひすいをイメージした色に変えた)

112 巻 5 号(10 月)： JADEITE AND JADEITITE 国石「ひすい（翡翠輝石、翡翠輝石岩）」特集号

ゲスト編集委員：宮脇律郎，辻森 樹，宮島 宏

招待原稿 総説 2 編，依頼原稿 総説 4 編，一般投稿 5 編

3. Letter 企画報告

2017 年年会講演を対象に Letter を募集 申込 6 件 投稿 3 件

2018 JpGU 大会講演を対象に Letter を募集 申込 8 件 投稿 5 件

4. 平成 29 年度 JMPS 学生論文賞授賞論文報告

受賞者は，後記(３)研究の奨励及び業績の表彰」に記載する。

5. 編集委員会開催報告

(1) 2017 年第 2 回 JMPS 編集委員会：平成 29 年 9 月 12 日(火)12:10-13:00 愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟 S21 室

報告事項

1. JMPS 状況報告,2) 編集状況 3) 発行状況

審議事項

1. 編集長・編集委員の交代について (1)委員の交代，(2)次期編集幹事，編集委員長：
2. 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする件
3. 投稿論文不足の件

(2) 2018 年第 1 回 JMPS 編集委員会：日時：平成 30 年 5 月 19 日(土)13:00-13:45 会場：会場：東京大学理学部 1 号館西棟 1 階 105 室
報告事項
1. JMPS 状況報告　1) 投稿数状況　2) 編集状況　3) 発行状況
審議事項
1. 編集長・編集委員の交代について　1)　次期編集幹事，編集委員長 2) 委員の交代
2. 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする件
3. JMPS 学生論文賞結果報告
4. Preprint server　対応
5. 機関リポジトリ（特に大学図書館）の件
6. その他：U-05：「地球惑星科学における学術出版の将来」セッション[5/22（火）9：00-12：15]のポスターセッションに JMPS のポスター出展報告

(3)　2018 年第 2 回編集委員会開催予定：日時：2018 年 9 月 19 日 12:30～13:30　会場山形大学
新英文誌編集幹事，新編集委員長，副編集委員長，編集委員の交代など。

(2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催事業

【1】行事報告・年会報告（黒澤行事幹事・理事）

1. 一般社団法人日本鉱物科学会 2017年年会・総会
日程：2017年9月12日(火)～14日(木)　会場：愛媛大学城北キャンパス
＜2017年年会報告＞
2017年9月12日(火)より9月14日(木)まで，愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟などにおいて，一般社団法人日本鉱物科学会2017年年会・総会が開催され，セッション形式による口頭講演，ポスター 講演，懇親会，定時総会，定例理事会，各種委員会，学会賞等受賞講演，巡検，クロージングセレモニーが行われた。
2017年年会ではセッションは，「スペシャルセッション3件)，レギュラーセッション他8件(R7: 岩石・鉱物・鉱床一般は資源地質学会と共催)であった。今回は特にスペシャルセッションにLOCによる，「放射光X線と中性子線の鉱物科学への応用」が企画され，一般講演のほか5名の招待講演が行われた。
年会での発表講演総数は198件（口頭126件，ポスター72件）であった。年会参加者総数は243名(一般正会員164名＋学生正会員48名＋非会員一般7名＋非会員学生24名)であり，懇親会参加者総数は126名(一般108名＋学生18名)であった。
また，一般社団法人移行後初めての定時総会が行われ，出席社員数290名[本人出席137人+書面153人(代理人行使115人+書面権行使38人）]があり，社員数906名の約3分の1の出席となり，無事決算の承認が行われ，続いて各賞の授賞式が執り行われた。
懇親会は愛媛大学大学生協食堂で開催され，参加者同士の親睦がおおいに深められた。展示業者は6社であった。
なお，LOCのご尽力で，松山観光コンベンション協会から590,000円の補助金を受けることができた。
今年の「研究発表優秀賞」受賞者は，審査の結果下記4名が決定し，今年初めてクロージングセレモニーを開催して，学生研究発表賞受賞者発表・表彰状授与を行った。また，次期年会の紹介もなされた。受賞者は，後記(３)研究の奨励及び業績の表彰」に記載する。
2017年9月15日に日本地質学会の後援を受け，愛媛県西条市市之川鉱山においてしばらくぶりに巡検が実施された。
2. 日本地球惑星科学連合2018年大会
日程：2018年5月20日(日)～5月24日(木) 会場：幕張メッセ国際会議場
3.日本鉱物科学会 2018年年会・総会 開催状況報告
日程：2018年9月19日(水)～21日(金)　会場：山形大学小白川キャンパス基盤教育1，2号館
内容：「スペシャルセッション」2件,「レギュラーセッション」8 件。
6月25日(月) 9時から7月17日(火) 20時 まで年会講演申込サイトにて申し込みを受け付け，7月19日（木）17:00まで延長したところ，申込数は198件で昨年と同じとなり，そのうち発表優秀賞エントリー33件と昨年より5件増えた。LOCにより会場準備進み，8/11に日程表とプログラムを年会HPに公開した。
2018年年会では以下の行事が予定されている。
(1) 市内ツアー：2018年9月19日(水)17:00～，(2) 巡検：2018年9月22日(土)：蔵王温泉，蔵王山，(3) 一般普及講演：9月22日(土)13:00から「日本の国石・ひすい」(会場)　ゆうキャンパス・ ステーション（山形駅前)，(4) 会期期間中，山形大学附属博物館において，特別展示として，「日本の国石・ひすい」を開催。
4. なお，上記の普及講演会については，2018年5月19日第2回理事会にて，学会の一般広報活動とともに，また引き続き国石選定事業の一貫として，山形大学年会で「ひすい」に関する普及講演会を行いたいと，土'山会長から提案があり審議され承認された。
提案内容：日時　9月22日（土)：午後 or 午前に講演会実施（当日仮予約済み一会場使用料なし）
内容：国石「ひすい」を中心に、委託された講師による2時間程度の講演（講師は宮島以外は選定中）
実行有志メンバー：土`山、黒澤、栗林、宮島、河上、以下LOC: 大友、加々島、湯口（承認されればWGへ？）
会場：ゆうキャンパス（山形駅前）
予算的には、LOCの予算を想定し、もし不足分がでた場合には学会から補填するということで、LOCと栗林会計幹事にはお話してあります。
5. 2019年年会開催予定　2019年9月20日(金)～22日(日)に九州大学伊都キャンパスで開催の予定。

【2】広報報告（伴広報幹事・理事）

(1) 広報委員会委員の主な役割の分担は昨年と同様：橋委員：将来計画委員会との連絡，門馬委員：ホームページ，亀井委員と奥村委員：学会でのブースである。学会のTwitter管理は奥村委員、Facebookは伴。
(2) 会員へのML送信を実施した（平成29年度中は23件)。内容は，学会事務連絡，年会開催関係，役員選挙，公募案内，関連学会案内等。
(3) 各賞受賞者へ受賞写真などを送付した。
(4) 連合大会の日本鉱物科学会ブース展示対応を行った。
1. 学会誌GKK, JMPSの紹介と配布, 年会, 表彰, 入会案内 , 2. 学会会員執筆書籍の展示・紹介, 3. 学会員に配布されている“Elements”の紹介と配布，　4. 「一家に1枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスターの紹介と配布，5. 寄贈試料の展示。
(5) 地学オリンピックでの「一家に1枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスター配布。
(6) 山形での年会開催時の日本鉱物科学会一般普及講演「日本の国石・ひすい」に向けて対応を行った。

【3】渉外報告（川本渉外幹事・理事）

「本学会会員執筆書籍の展示」は，毎年引き続き行われておりますが，今年は新たな展示希望がなく現在合計31冊保管している。

【4】Elements報告（片山Elements幹事）

以下の記事をJAMS Society Newsとして編集し、Elementsに投稿した。JAMSは1年間に6号で8頁使用可(会員～1000名の学会)であり、毎号1頁を目安に記事を作成している。2018年は以下の通りである。
2018年Vol. 14 No. 1-6
No.1 (2月号): From the president（土'山会長），Invitation to the JpGU Meeting, JMPS Vol. 112, no. 6, December 2017
No.2 (4月号): JBBP: Supercritical Geothermal Resources（土屋会員），JMPS Vol. 113, no. 1, February 2018
No.3 (6月号): Oman Drilling Project（森下会員），JMPS Vol. 113, no. 2, April 2018
No.4 (8月号): Discovery of new members of Atacamaite family（浜根会員）,JMPS Vol. 113, no. 3, June 2018
No.5 (10月号: JAMS Awardees，JMPS Vol. 113, no. 4, August 2018
No.6 (12月号): (原稿締切 2018/10/4)JAMS Awardees，JMPS, Vol. 113, no. 5, October 2018

(３)研究の奨励及び業績の表彰　（中村庶務幹事・理事）

【1】平成 29 年度日本鉱物科学会賞表彰
第 18 回受賞者：海野　進　会員
業績題目：無人岩質マグマの成因と海洋プレートの生成・進化過程の研究
第 19 回受賞者：糀谷　浩　会員
業績題目：熱測定と分光学的手法によるマントル鉱物の熱力学的性質及び結晶構造に関する研究
【2】渡邉萬次郎賞表彰
第 34 回受賞者：加藤祐三　名誉会員
【3】平成 29 年度日本鉱物科学会論文賞表彰
第 19 回受賞論文
Title: UHT granulites of the Highland Complex, Sri Lanka I: Geological and petrological background.
および
Title: UHT granulites of the Highland Complex, Sri Lanka II: Geochronological constraints and implications for Gondwana correlation.
Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 111-3, 145-156 (2016)および 111-3, 157-169　(2016).
受賞者：小山内康人　会員，中野伸彦　会員，北野一平　会員，足立達朗　会員
【4】平成 29 年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰
第 23 回受賞者：鹿山雅裕　会員
研究対象：「カソードルミネッセンスによるケイ酸塩鉱物構造欠陥の定量評価と地球惑星科学への応用」
第 24 回受賞者：新名良介　会員
研究対象：「高温高圧実験を用いたマントル深部鉱物の物理・化学的性質の研究」
【5】平成 29 年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰
第 11 回受賞者：森本和也　会員
題目：「機能性層状複水酸化物の合成とその機能性材料への応用」
【6】平成 29 年度櫻井賞表彰
第 44 回受賞者：高井康宏　会員
対象鉱物：肥前石
【7】平成 29 年度 JMPS 学生論文賞受賞論文表彰
第 5 回受賞論文：Ippei KITANO, Yasuhito OSANAI, Nobuhiko NAKANO, Tatsuro ADACHI : Detrital zircon provenances for metamorphic rocks from southern Sør Rondane Mountains, East Antarctica: A new report of Archean to Mesoproterozoic zircons
受賞者：北野一平会員　投稿時：九州大D2
第 6 回受賞論文：Yurie NAKAMURA, Takahiro KURIBAYASHI,　Toshiro NAGASE: Cation ordering of {110} and {211} sectors in Grandite garnet from Mali
受賞者：中村友梨江会員 投稿時：東北大 D2
【8】2017 年年会研究発表優秀賞表彰
第42回受賞者 門林宏和会員(愛媛大・GRC)　S3-08：C-H-O系における氷惑星内部条件下でのダイヤモンド生成条件の解明
第43回受賞者 柿澤　翔会員(愛媛大・GRC)　R3-01：Alに富むSuperhydrousphase Bの単結晶構造解析」
第44回受賞者 鴛海太郎会員(東北大・院工)　R2-P12：Ｘ線異常分散法による、らせん対称性をもつ鉱物のキラリティの決定
第45回受賞者 山根　崚会員(東大・院理)　R2-P15：高圧、高電場下における氷VII相の中性子回折実験

（４）本会の目的を達成するために必要な事業

【1】 庶務報告 (中村庶務幹事・理事)

(1) 平成29年度幹事会，理事会開催，調整，監査立ち合い
(議題作成，議事録作成，総会招集通知資料作成，発送，総会議事録作成，第2回理事会会場準備，TV会議準備)
第1回定例理事会開催：平成29年9月12日(火) 17:00-18:00　於：愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟　S21室
第1回幹事会開催：平成30年5月19日(土) 15:30-16:00　於：東京大学理学部１号館西棟1階105室
第2回定例理事会開催：平成30年5月19日(土)16:45-18:45　於：東京大学理学部１号館西棟1階105室
第3回定例理事会開催：平成30年9月3日(月)13:00-15:00　於：東北大学理学部理学合同A棟402室　日本鉱物科学会事務局
一般社団法人日本鉱物科学会監査立ち合い：平成30年9月3日(月)9:00-11:00 於：日本鉱物科学会事務局
平成29年度定時総会：平成30年9月20日(木) 9:00-10:10　於：山形大学小白川キャンパス基盤教育2号館221教室
⇒理事会議事録，総会議事録は「岩石鉱物科学」と学会HPに公開されていますので，ご覧ください。
(2) 連合への各種対応：2019年JpGU大会プログラム委員選出（正）齊藤　哲，（副）門馬綱一
(3) 後援，共催，協賛の承諾
(4) 会員への連絡，事務局の管理
(5) 表彰に関する件：第9回平成30年度日本学術振興会「育志賞」受賞候補者推薦　候補者推薦なし
(6) 2018/5/20：JpGU2018開催期間中に三鉱連絡会議を開催
（出席者：JAMS土'山会長，中村庶務幹事，SRG：森下会長，藤本常務委員長　合計4名）
(7) 2018/5/30：愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター(GRC)と岡山大学惑星物質研究所から，国際共同利用・共同研究拠点認可への推薦支援依頼があり，メール幹事会を開催して検討し，推薦の支援をした。

(8) 2018/6/30：小惑星探査機「はやぶさ2」の小惑星リュウグウ到達成功に関する声明文につてメール幹事会を開催して賛同を得たので関係各位に声明文を送った。

(9) 平成29年度役員　各委員会委員報告

理事(32 名)

会長(代表理事)：土`山　明，副会長(代表理事)：榎並正樹

理事：

大藤　弘明，　鍵　裕之，　貴治　康夫，　佐藤　努，　角替　敏昭，
永嶌真理子，　濱本　拓志，　平島　崇男，　宮島　宏，　森下　知晃
阿部なつ江，　井上　徹，　上原誠一郎，　黒澤　正紀，　小暮　敏博
下林　典正，　高澤　栄一，　土谷　信高，　長瀬　敏郎，　中村美千彦
安東　淳一，　大和田正明，　河上　哲生，　川本　竜彦，　鈴木 正哉，
永井　隆哉，　伴　雅雄，　三河内　岳，　宮脇　律郎，　吉朝　朗

監事：小山内康人

幹事会

会長：土`山　明，副会長：榎並正樹，庶務幹事：中村 美千彦，会員幹事：佐藤　努，会計幹事：栗林貴弘，行事幹事：黒澤正紀，和文誌編集幹事：長瀬敏郎，英文誌編集幹事：平島崇男，渉外幹事：川本竜彦，広報幹事：伴　雅雄，Elements: 片山郁夫，特務幹事（会則・内規検討担当）：大和田正明，特務幹事（会員増対策担当）：吉朝　朗，三鉱連絡委員：中村美千彦，黒澤正紀，地惑連合連絡担当：大谷栄治

行事委員会

委員長：黒澤正紀　幹事　副委員長：角替敏昭，磯部博志

委　員：井湯口貴史（2018 年 LOC 委員）鍵　裕之，片山郁夫，河上哲生，橘　省吾，寺崎英紀

岩石鉱物科学編集委員会

委員長：長瀬敏郎　幹事　副委員長：髙澤栄一

委　員：阿部なつ江，荒川洋二，　石渡　明，　上原誠一郎，大藤弘明，　掛川　武，　木村純一，
興野　純，　久保友明，　栗谷 豪，　栗林貴弘，　小暮敏博，　近藤　忠，　柴　正敏，
下林典正，　高須　晃，　土谷信高，　中井　泉，　中村美千彦，　永嶌真理子，　西戸裕嗣，
野口高明，　長谷中利昭，　濱田麻希，　林謙一郎，　林信太郎，　伴　雅雄，　坂野靖行，
平島崇男，　藤縄明彦、　星出隆志，　牧野州明，　宮島　宏，　三宅 亮，　宮原正明
村田　守，　門馬綱一，　圦本尚義，　吉朝　朗

JMPS 編集委員会

委員長：平島崇男　幹事　副委員長：吉朝　朗，　M. Satish-Kumar

委　員：伴　雅雄，榎並正樹，　藤本光一郎，林謙一郎，井上　徹，石渡　明，加藤丈典　河野元治，木村純一，小木曽哲，
栗林貴弘，興野　純，　松枝大治，　三河内岳，　門馬綱一，永井隆哉，中村美千彦，小畑正明，大谷栄治，奥寺浩樹，
大和田正明，佐藤　努,佐脇貴幸，　篠田圭司，下林典正、杉山和正，　角替敏昭，宇都宮聡
Jung Ho Ahn, Richard J. Arculus, D. Chandrasekharam, Ming Chen, Moonsup Cho, Alexander Khanchuk, Anhuai Lu, Joseph R. Smyth

渉外委員会

委員長：川本竜彦(岩石関係)

委　員：栗谷豪(火山)，辻森　樹 (地質)，井上　徹 (高圧) ，永嶌真理子 (鉱物) ，宇都宮聡 (環境)

広報委員会

委員長：伴　雅雄

委　員：奥村 聡，　亀井淳志，　橘 省吾，　門馬綱一，　中村美千彦（庶務幹事）

Elements 委員会

委員長：片山郁夫, 副委員長：興野 純

委　員：宇都宮聡、森下知晃、鍵 裕之，　井上 徹，　寺崎英紀，橘 省吾，　宮脇律郎，　横山 正（サイエンスボード）

Society News Editor：片山郁夫

Executive Committee Member：土'山　明会長

中村美千彦（庶務），長瀬敏郎（GKK），平島崇男（JMPS），黒澤正紀　(行事)，川本竜彦(渉外)，伴　雅雄(広報)

（学会役職指定委員）

将来企画委員会

委員長：榎並正樹（副会長）

委員：阿部なつ江，井上　徹，　大藤弘明，　鍵　裕之，　黒澤正紀，　中村美千彦，永井隆哉，永嶌真理子，　森下知晃

オブザーバー(役職指定)：土'山　明(会長)

細則等検討委員会：

委員長：大和田正明（細則等検討特務幹事）

委員：川本竜彦，角替敏昭，永井隆哉，宮脇律郎 オブザーバー(役職指定)：榎並正樹（副会長）

新鉱物・命名・分類委員会

委員長：宮脇律郎

委　員：豊　遙秋，上原誠一郎，小林祥一，清水正明，坂野靖行，松原　聰．浜根大輔、門馬綱一

教育普及委員会

委員長：奥山康子

委　員：貴治康夫，林慎太郎，宮島　敏，川手新一

博物館委員会

委員長：坂野靖行

委　員：宮脇律郎，宮島　宏，長瀬敏郎，森　康

日本鉱物科学会賞選考委員会

委員長：川本竜彦、副委員長：宮脇律郎

委員：井上 徹，　大藤弘明，　大和田正明，　鍵　裕之，小暮敏博，　佐藤 努，　中村美千彦，　平島崇男，(会長）土`山　明

渡邉萬次郎賞選考委員会

委員長：宮島　宏, 副委員長：下林典正

委　員：（2 期目継続委員）：上原誠一郎，土谷信高，吉朝　朗

（1 期目委員）：大和田正明，平島崇男 ，宮脇律郎

日本鉱物科学会論文賞選考委員会
　委員長：中村美千彦，副委員長：三河内岳
　委　員：(2 期目継続委員)：阿部なつ江，井上　徹,永嶌真理子，平島崇男
　　(1 期目委員)：榎並正樹，　河上哲生，川本竜彦，高澤栄一
日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会
　委員長：三河内岳，副委員長：　奥村　聡
　委　員：(2 期目継続委員)：井上　徹，鍵　裕之，黒澤正紀，下林典正
　　(1 期目委員)：大藤弘明，河上哲生，　森下知晃，　門馬綱一
日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会
　委員長：鈴木正哉　　副委員長：　門馬綱一
　委　員：(２期目継続委員)　：上原誠一郎，黒澤正紀，小暮敏博，永井隆哉
　　(１期目委員)：　佐藤　努，　長瀬敏郎，　宮脇律郎，吉朝　朗
櫻井賞選考委員会
　委員長：松原　聰
　委　員：中井　泉，清水正明，　宮脇律郎，　坂野靖行，　宮島　宏
研究発表優秀賞選考委員会
　委員長：門馬綱一　　副委員長：越後拓也
　委　員：(２期目継続委員)：齊藤　哲，坂巻竜也，三河内　岳，三宅　亮
　　(１期目委員)：境　毅，　辻森　樹，長瀬敏郎，　　興野　純
次期会長・副会長推薦委員会委員(構成委員 5 名)
　大和田正明，黒澤正紀，中村美千彦，永井隆哉，平島崇男
選挙管理委員会委員
　大内智典博，坂巻竜也，則竹史哉

【2】 将来企画委員会報告　(榎並委員長・副会長)

1. 第19回2017年将来企画委員会報告
　日時：平成29年5月19日14：30-15：30　会場:愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟S21
　　継続審議となっていた以下の理事会からの諮問についてし5月19日の第２回理事会に答申し理事会で審議承認された。
　　議案：「外部団体からの受賞候補者推薦依頼への対応」
　　1)候補者選考対象:日本鉱物科学会の各賞受賞者を候補者の選考対象とする．会員への候補者の推薦依頼（日本学術振興会育志賞の候補者リストの作成は行う）
　　2)推薦された候補者もしくは候補者リストからの選考:委嘱された日本鉱物科学会各賞の選考委員会が分担して選考をおこなう．具体的には，
　　・IMA Awardおよび日本学術振興会賞　→学会賞選考委員会
　　・文部科学大臣表彰若手科学賞　→奨励賞選考委員会
　　・文部科学大臣表彰科学技術賞　→応用鉱物学賞選考委員会（日本学術振興会育志賞の選考委員会は）
　　3)候補者の最終決定:基本的に，委嘱された各選考委員会の推薦候補者を最終決定とする．理事会へは報告事項とする．
2. 第20回2018年将来企画委員会報告
　日時：平成30年5月19日13:45-14:35　会場：東京大学理学部１号館西棟1階105室
　　議題は下記の通り。
　　1）外部団体からの受賞候補者推薦依頼への対応（特に育志賞）⇒指導教員に推薦してもらう
　　2) 科研費審査制度の大幅変更に関して⇒情報収集をすること
　　3) 会員数増のための学会としての対応⇒会員増対策担当と共に継続審議していく。
　　4) 会員会費規定の変更案を含めたアンケート実施について⇒継続審議していく。

【3】特務幹事(会員増対策担当) 報告（吉朝特務幹事･理事）

　会員減少対策として種々試案をしているところ，会員幹事や会計幹事とも連携して以下の様に検討結果を提案してきた。
　なお，以下第1回定例理事会への1回目の提案は承認には至らず，WGを立ち上げて継続審議として検討することが承認された。
1. 平成29年度第1回定例理事会に「会員数減少を阻止する目的のため検討」1回目の提案をした。
　日時：平成29年5月19日17:00～18:00　会場:愛媛大学城北キャンパス理学部講義棟S21
　　<議案＞会員退会現状を鑑み、在籍45年(現在58名)以上をもって、当該正会員およびシニア会員の永年会員への移行を推薦する提案。(シニア会員にとどまりたい、という希望の方はそのままシニア会員とする)。この場合、永年会員の運営細則での定義を以下のように変えなければなりません（定款変更ではありません)。
　　現在の定義：永年会員　とは8月1日～次年度の7月31日中に80歳になる正会員と80歳以上の正会員　です。
　　新しい定義：永年会員　とは8月1日～次年度の7月31日中に80歳になる正会員と80歳以上の正会員および在籍45年以上の正会員
　　⇒デメリット：ほとんどシニア会員なので，45 年以上 58 名が永年会員になると，40 万円近い減収になる。ただし、今後これに相当する方々が辞めていかれると自然減になるので、今後とも継続的に 40 万円減という事ではない。
2. 以下の会員の新設、定款変更を含めて、今後とも前向きに審議を進めるか否かについて審議提案。
　鉱物や鉱物科学に興味がある会員（例えばマニア会員）を設ける。(例えば天文学会には正会員（天文学または関連する分野に携わり，本会の運営に責任をもつ個人）に対して、準会員（本会の目的に賛同し，活動に協力する個人）という会員が存在する。)
　ただし、以下のような手続きを経て、定款変更する必要がある。

　⇒　注意点：どの会員区分を一般法人法上の社員とするかは法人の決めにより，当学会定款では第 5 条 2 項で定めています。
　定款より（法人の構成員）
　第 5 条 本会に次の会員を置く。
　　(1) 正会員 本会の目的に賛同する個人。
　　(2) 賛助会員 本会の目的に賛同し、本会の事業を賛助する団体または個人。
　　(3) 名誉会員 鉱物科学またはこれと密接に関連する学問分野において特に業績顕著な者、または本会に対し特に功労のあった者の中から理事会において承認を得た個人。
　　2 前項の正会員及び名誉会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(以下､｢一般法人法｣という。)　上の社員とする。
　以上から，会員区分の追加や変更は定款第 5 条第 1 項を変更しなければならない場合は，(4)に新しい会員区分を規定する場合，

定款変更は，社員総会の特別決議に当たり，普通決議の様に 1/10 の出席の過半数決議ではなく，**正会員及び名誉会員の議決権総数の 3 分の 2 以上に当たる多数(600 人以上の賛成）をもって行うことになりますので，実施には注意すること。**

【4】会員区分等検討WG報告(吉朝特務幹事･理事，佐藤会員幹事・理事）

平成29年度第1回理事会でWGの設置が承認されたのを受けて，以下のメンバーでWGを立ち上げメールやWEBで会議を開催したことを報告する。

1. 会員区分等検討WG設置の目的＞

委員長：吉朝　朗　特務幹事（会員増対策担当）　副委員長：佐藤　努　会員幹事
委員：土`山　明会長，榎並正樹副会長（将来企画委員長），中村美千彦庶務幹事，栗林貴弘会計幹事，
大和田正明特務幹事（細則等検討担当），若干名
目的：H29年度第1回理事会での継続審議として、会員増を目指した短・中期的な会員制度見直しの検討を行い、理事会に答申する。
短期的：年寄問題，中期的：若手増・他分野アカデミック人員増加・アマチュア（マニア）の取り込み
WG会議方法：１回目：Web会議とし、今後の方針・予定などを含めて話し合う。可能であれば10月中に（日程調整は副委員長が行う）
２回目以降は、１回目を受けてフレキシブルに行う

---

2. 第1回会員区分等検討WG開催　2017年10月27日10:30-12:00　ZOOM会議

＜議題＞(1) 追加メンバーを決める (2) 議題を整理する (3)次回予定を決める
<第１回　会員区分等検討WG　議事メモ 2017年10月27日　10:30～12:00 ZOOM会議>
出席：土'山会長、吉朝特務幹事（会員増対策担当）、佐藤会員幹事、大和田正明特務幹事（細則等検討担当）、中村庶務幹事（書記）
欠席：榎並副会長、栗林会計幹事
(1) ＷＧメンバーを追加する：３名
榎並将来企画委員長に（土'山会長/吉朝WG委員長から）将来企画検討委員会メンバー（永井・黒澤・鍵・阿部な・井上徹・大藤・永嶌・森下・中村美）を含め推薦を依頼。世代を考慮。現ＷＧよりも若手を増やす。アマチュア会員の事情に明るい方（中村から栗林幹事に相談。＋博物館関係者？）⇒浜田麻希会員、貴治康夫理事がメンバーに参加することになった。
(2)検討すべき課題を、短期対応が可能/必要なものと、長期対応（会員種別など定款の変更を伴う）とに整理する。・土'山会長期に、できるだけ進めておきたい。検討結果は、ＷＧから理事会に答申する。
(3)＜前提となる確認事項＞
Elements経費（為替レートのため経費がかさんでいる）：あらゆる種別の会員が購読数の対象となるのか、選択可能かを再度確認（→会議後に中村庶務幹事から事務局に確認中。Elements契約時の文面があったはず）たとえばシニア会員でElements不要の人は会費を安くして大会を防ぐなど、現状の会員区分でできる対策があるか。Elementsを購読しないという選択肢は現実的でない。アマチュア会員を設けた場合、会員サービスに使える。
(4)＜その他、具体的な会員数対応策に関する意見＞
・シニアの方の退会に歯止めをかける方策：検討事項：収入減、会員サービスをどうするか。無料にして会員数だけを維持するメリットはあるか。会員数動向の統計に基づく緊急性の判断が必要。
・他分野に移行して退会する方を留める方策：連携学会の会費を安くするなど（収入源と退会防止・新規入会増のバランス）
・現状は分野に偏りがある。工学など周辺分野の取り込みが必要。
・年会で、他学会との境界領域のシンポジウムを計画的に開催。非会員・鉱物科学会を主としない会員を招待するなど。
・学生のリクルートの場としての機能を強化（民間の方を学会に呼ぶ：そのようなテーマのシンポジウムを開催するなど）
(5＜次回：第２回＞
・会員区分を俯瞰しないと短期的にも対応しきれない。ＷＧでは長期対策も視野に入れて検討する。
(6)・フルメンバー（10名）が決定したら、短期対応、長期対応すべき検討項目を整理する。再度ビデオ会議。長期対応は顔を合わせて検討するのがよいだろう。

---

3. 第2回会員区分等検討WG開催　2018年4月5日木曜日の14:45-16:15　ZOOM会議

<第2回　会員区分等検討WG　議事メモ　2018年4月5日　14:45～16:15インターネット会議>
出席：土'山会長、榎並副会長、吉朝特務幹事（会員増対策担当）、佐藤会員幹事、大和田正明特務幹事（細則等検討担当）、
中村庶務幹事（書記）、栗林会計幹事、浜田委員、貴治委員
欠席：小山内監事
(1)＜会員区分見直しの前提となる確認事項＞
Elements経費について：契約書とElementsの事務局に確認したところ、シニア会員でElements不要の人は送付をストップすることができることを確認した。
(2)＜短期的視野での会員数減対応の検討＞
審議の結果、シニア会員でElements不要の人は送付をストップし、学生会員並みの会費にすべき（その後の検討により、学生会員並みであるとかなり（27万円以上）の収入減になるので、学生会員よりも1000円高いものに設定し、現在よりも2000円割引になるように設定）。
以上のような会費設定にするために、会員会費規定改定で対応する。新しい会員規定は佐藤会員幹事が作成し、第3回のWeb会議に提案・審議する。その後、5月19日開催の理事会に提案し、秋の総会で規定改定を審議するスケジュールで進める。
(3)＜長期的視野での会員数減対応の検討＞
・マニア会員や高校生会員の設定は会員増のためには有効。ただし、その勧誘に向けた行事や会員サービス、会費などをどのように設定すればよいかを議論する必要がある。
・根本的な（会費の割引等で対処するのではなく）会員増に向けた働き（民間企業に就職した学生が抜けない、あるいは民間企業の方が来れるようなプログラム等）もする必要がある。
上記2点については、行事等のアクティビティにも関係する内容なので、将来企画委員会でも審議いただき、会員区分WGとも連携して、学会としての方向性を示していく必要性がある。

---

4. 第3回会員区分等検討WG開催　2018年5月7日　15:00～16:30インターネット会議

5月19日の第2回定例理事会にて報告した。

＜第3回　会員区分等検討WG　議事メモ　2018年5月7日　15:00～16:30インターネット会議＞

出席：土'山会長、榎並副会長、吉朝特務幹事（会員増対策担当）、佐藤会員幹事、大和田正明特務幹事（細則等検討担当）、中村庶務幹事、栗林会計幹事、浜田委員、小山内前会長

欠席：貴治委員

(1) 会員会費規定の変更案について

事前にメールで佐藤会員幹事から送付されていた以下の会員会費規定の変更案について審議を行った。

変更案 会員会費規定第5条に下記⇒以降，二重下線の第2項を加筆する案。

⇒5月19日の第2回理事会で審議の上承認されので，9月20日の総会で審議する。

＜現行＞

（年会費）

第5条 本会の会員は、会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。

（1）電子版及び冊子版を購読する会員：一般会員10,000円、学生会員5,000円、シニア会員8,000円、名誉会員及び永年会員1,000円

（2）電子版のみを購読する会員：一般会員9,000円、学生会員4,000円、シニア会員7,000円，名誉会員・永年会員：無料

（3）賛助会員：1口20,000円

＜改正案＞

（年会費）

第5条 本会の会員は、会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。

(1) 電子版及び冊子版を購読する会員：一般会員10,000円、学生会員5,000円、シニア会員8,000円、名誉会員及び永年会員1,000円

(2) 電子版のみを購読する会員：一般会員9,000円、学生会員4,000円、シニア会員7,000円，名誉会員・永年会員：無料

(3) 賛助会員：1口20,000円

⇒ 2 シニア会員は、申し出によって、本規定第3条（1）の会誌等に含まれているElements冊子体の受領およびその電子ジャーナルアクセス権の付与を辞退することができる。その場合のシニア会員の会費は、第5条（１）電子版及び冊子版を購読するシニア会員は6,000円、(2) 電子版のみを購読するシニア会員は5,000円となる。

これを、会員会費規定の変更ではなく、新規に内規等を作成して対応しようという意見も出た。しかし、これは、定款第7条「総会において別に定める年会費を支払わなければならない。」と、年会費は総会が定める旨記載されているので、どの場合でも総会決議になってしまうため、内規等で対応することはできないと判明した。また、会員会費規定第7条により、第5条の改変には総会の普通決議が必要になってしまうので、審議の結果、学会の顧問先に問い合わせて良ければ、次回総会に提案する方向で5月19日に開催される理事会に諮ることとした（ただし、本改訂案の適応は、平成31年度の会費徴収からとする）。

(2) **会員区分の変更について**

前回までの議論の中で出た、高校生会員やいわゆる「マニア会員」等も含めた会員区分の変更に関しては、以下に示すアンケート等の結果も踏まえて、今後一年間議論して、可能であれば来年の総会に定款第5条あるいは会員会費規定第2条の変更を提案して決議していただく方向で進めていく（ただし、定款第5条の変更は定款特別決議（会員2/3約600人以上の賛成）になることに注意）。

(3) 会員会費規定の変更に関するアンケートの実施について

上記会員規定変更に際してアンケートを実施しようという提案であったが、それだけを会員にお問い合わせするアンケートではもったいないのではないかという意見が出た。せっかくであれば今後の学会の方向性や、アクティビティ、会員サービス、雑誌等も含めて、会長から各委員会やWGに問い合わせして、それらを含めたアンケートを実施することを5月19日の理事会に諮ることとした。

(4) 今後の会員数増のための議論

今回提案するシニア会員の割引制度は、短期的な会員数減に対応するための方策であって、鉱物科学会をもっと魅力ある学会にして会員増につなげるための方策ではない。これには会員区分の検討の他に、今後の学会の方向性や、アクティビティ、会員サービス等、今後の学会の将来問題とも大きく関係する事なので、会員区分検討WGと将来問題検討委員会が十分連携して議論していくこととなった。その中でも、鉱物学・岩石学の分野が関係する科研費の区分が変更になって採択率が減少してるようなことも考えられるので、その辺も将来問題検討委員会で十分考慮する必要があるという指摘があった。

---

5. 学会運営に関するアンケート実施調査の件　（土'山会長）

(1) 学会員へのアンケート実施についての是非の件

本会員会費規定変更に関して会員区分等検討WGで議論を重ねてきましたが、本日の理事会において、会員会費規定の一部を改訂する案を総会に諮るか否かの審議していただきましたが，この件に関して、学会員の皆様に対してアンケートを実施しようという提案がありました。しかしそれだけをアンケートするのはもったいないという意見が多数出ました。そこで、会員区分だけでなく、今後の学会の方向性や、アクティビティ、会員サービス、雑誌なども含めて、全般的なアンケートをおこなってはと考えた次第で，学会員へのアンケート実施についての是非を審議お願いします。なお，現在，「各委員長，WGの長」に，その事前調査をお願いしています。⇒審議の結果承認された。

(2) 本件実施調査方法など

---

6. 2018/9/3の第3回定例理事会での報告内容

会員増に向けて、シニア会員の経費負担削減により、より長く会員として、留まっていただく方向の下記提案を会員区分等検討WGで検討をおこなってきた，今までのまとめを報告した。

(1) ＜会員会費規定第5条に第2項を加筆する＞

「２　シニア会員は、申し出によって、雑誌Elementsの受領を辞退することができる。その場合のシニア会員の会費は、電子版及び冊子版を購読するシニア会員6,000円、電子版のみを購読するシニア会員5,000円となる。」

注)この規定改正を2018年9月20日の総会で諮りますが，承認された場合は、会計期間の都合上、2019年8月1日からの会計年度の会費徴収から適用することとする。

(2) その他、会員増に向け、情報収集と議論を行い、下記の提案をする。以下、アンケート実施も含めて、今後も努力を進めてゆく。

・中堅会員に対して、関連学会員との共通あるいは深く係るのテーマのシンポジウム等を頻繁に行い、会員増を図る。

・若手会員に対して、学生会員の卒業後の定着に向けて、学生会員並みの会費で、アカデミアではなく情報収集を中心とし、サービスを落とした準会員等の会員制度も考えられる

・高校教員や高校生の積極的な、参加を図る。会費の配慮が必要。
・鉱物や岩石のマニアの参加について、議論した。前向きの意見とそうでない意見があった。
(3) Elementsの配布の差別化を図り、会計上の余裕を調査した結果、会員の差別化に前向きな意見があった。
今後継続してい審議していく。

【5】地惑連合報告（大谷連絡担当委員）

1. 2018年5月19日第2回定例理事会での報告内容
・定時社員総会5月22日15:30-16:30, 学協会長会議 5月22日12:30-13:30
・2017Joint meeting セッション253 (国際153)；5645 (口頭2867/ポスター2778)
・ジャーナルPEPS: Impact factorがつく。IP=2.5：3以上をめざす。1/3がreview
・JSPSのジャーナル支援の申請：通らなかった。EPS, GJなど多くの申請が通らず。
・外国学協会との連携：AGUとジョイント、EGU, AOGSとのジョイントセッション
・国際地学オリンピックフランス大会（2017年8月22－29日）支援、29か国108名参加：金2、銀2、国別順位2位（台湾と同列）今年は8月8日―17日にタイ
・代議員選挙：150名がきまる。宇宙23, 大気水圏30、地球人間18、固体50、地球生命13、総合16名
・セクションプレジデントの選挙：任期2018.6.1-2020.5.31
・理事選挙：：理事候補者20名、幹事候補3名
・正会員8184, 準会員956
・フェロー審査（毎年）、西田賞審査（隔年）、三宅賞（隔年）
・JPGUの事務局員の雇用にういて、就業規則を決める。退職金規則、定年・再雇用規則、退職金の積み立て、フレックスタイム制の導入
・補正予算の支出節約：科研費が0円になった。2017年の黒字分を考慮すると正味の赤字は減るが5－10%を目安に節約依頼。
2. 2018年9月3日第3回定例理事会での報告内容
第3回理事会が開催された：2019年の年会に向けて準備が始まっている。プログラム委員の選出、プログラムのガイドラインが決まりつつある。EとJの２種類に区分。
2019 年大会体制：大会委員長　水文・水資源学会 会長
プログラム委員長：堀 和明（名大），プログラム副委員長：稲垣 史生（JAMSTEC）
※2020 年大会プログラム委員長プログラム副委員長：樋口篤志（千葉大学）※2018年大会プログラム委員長
第３回理事会では、以下の事項が審議された。新入会員承認の件、新入会団体会員承認の件、委員会委員承認の件、ＳＯＬＡＳコンファレンスへの大気水圏科学セクション協賛承認の件、就業規則改定の件（フレックス制度の導入）、雇用人事承認の件、地球惑星科学振興西田賞準備資金取扱規則の改定の件、会員管理等システム移行ならびにセキュリティ向上の件、プライバシーポリシー改定の件

【6】 学術会議報告（大谷学術会議連携会員）

1. 2018年5月19日第2回定例理事会での報告内容
・24 期学術会議の体制が発足した。地球惑星科学委員会（委員長藤井良一：会員 6 名；連携会員 70 名）のもとに、企画分科会（藤井委員長、他 9 名）と５分科会（地球惑星圏分科会（田近）、国際連携分科会（中村）、社会貢献分科会（高橋桂子）、地球人間圏分科会（春山）、人材育成分科会（木村））
・国際連携分科会の改編：IMA 分科会、INQUA 分科会、COSPAR 分科会の 3 分科会が小委員会に改組：分科会は IGU(春山)、SCOR(山形)、IUGG（中田）、IUGS（北里）
・夢ロードマップの改訂作業（JPGU とともに）、大型研究の大規模改訂（2020 年度）の作業を開始：3 月 28 日にヒヤリングを実施：13 件の発表、評価・助言を行う。
・メルボルン IMA 総会への派遣の申請：1 名を申請中（5 月末の幹事会で判断される）
・メルボルン IMA 総会について。総会派遣メンバーと総会出席者の確認: 総会は LOC において、IMA 期間中の中日（水）で調整中
2. 2018年9月3日第3回定例理事会での報告内容
・５月以降、人材育成分科会などいくつかの分科会が開催された。また、大型研究計画については、日本地球惑星連合の各セクションを通して、５月に示された原案に対するコメントを各学会、大型研究代表に問い合わせている。１０月をめどに改定案を策定する予定。
・人材育成分科会などいくつかの分科会が開催された。
・IMA2018 がメルボルンにおいて８月１２日―１７日の日程で開催された。我が国から多数参加した。各種のコミッション会合、ビジネス会合は以下にまとめる。
Monday 12 August 1st council meeting (Closed)
CNMNC meeting (Closed Meeting)
Monday 13 August:1st Business Meeting (Open Meeting) Location: Plenary three, Ground level Melbourne Convention Centre 1230-1330
CNMNC meeting (Open Meeting): Location: Room 217, Level 2 Melbourne Convention Centre 1715-1745
Tuesday 14 August: 2nd Council Meeting (Closed Meeting)
Location: Room 215, Level 2 Melbourne Convention Centre1230-1330
Commission on Gem Materials (Closed Meeting): Location: Room 216, Level 2 Melbourne Convention Centre: 1230-1330
Meet the Editors – Mineralogical Magazine: Location: Miner Soc exhibition booth #2, Foyer 3, Level 1 Melbourne Convention Centre 1745-1845
Wednesday 15 August: 2nd Business Meeting (General Assembly): Location: Plenary three, Level 1 Melbourne Convention Centre 1230-1330
Commission of Physics of Minerals: Room 215, Level 2 Melbourne Convention Centre
13:00-15:00
Commission on Museums: Location: Room 215, Level 2 Melbourne Convention Centre 1745-1845
Thursday 16 August: 3rd Council Meeting (Closed Meeting), Location: Room 215, Level 2 Melbourne Convention Centre 1230-1330
15 日が開催された総会には我が国から数名が参加した。投票（4 表）は、大藤、宮脇、井上、大谷の 4 名が行った。総会では、次期の会長を含むカウンシルメンバー等の投票が行われ承認された（会長 Lille 大学の Parick Cordier 教授。次期 2022 IMA は、フランスリヨンで開催。Medical mineralogy 関連の新ワーキンググループが提案され承認された。次回 M&M はブダペスト。以上

【7】新鉱物・命名・分類委員会報告（宮脇委員長・理事）

IMA2018 メルボルン大会期間中の IMA-CNMNC にで次期委員長に指名されたため、日本代表委員を新たに決める必要が生じた。IMA-CNMNC 日本代表委員は当会鉱物・命名・分類委員会委員長が担うので、委員長の交代も必要となる。鉱物・命名・分類委員会は協議の結果、次期委員長として門馬綱一委員を次期会長に推薦することになった。

【8】教育普及委員会報告（奥山委員長）

1. 2017年9月12日第1回定例理事会での報告内容
   ・JpGU 教育検討委員会に参画し，新学習指導要領の下での「地学基礎」の内容を検討し，文科省への提出予定.
   ・JpGU 教育課程小委員会として，「地球惑星科学学習帳」（当委員会委員が中心となって作成）をディストリビュートする取り組みを行う.
   ・学術会議の下で地学地理学分野の教育用語を検討する取り組みが進行中（当委員会委員が参画。）
2. 2018年5月19日第2回定例理事会での報告内容
   ・今期も JpGU 教育検討委員会にて他学会の初等・中等教育関連委員とともに活動した．具体的には，1) 上記委員会内の小委員会で作成した高等学校「地学基礎」のカリキュラム具体案を，検討資料として文科省に提出，2) 検討中の高等学校学習指導要領案に対して，パブリックコメントの形で意見を提出.（※これは理事会資料に入れなくても良いのですが，現在版の高校「地学基礎」の履修率は約 30%ということです．ご参考までに）
   ・JpGU 大会では，20 日（日）午後に教育検討委員会主催のセッション「G-05　小・中・高校，大学の地球惑星科学教育」が，また午前に委員会が関係するセッション「O-01 これからの高校における地球惑星科学教育」が開催される. ぜひご参加ください.
3. 2018年9月3日第3回定例理事会での報告内容
   ・鉱物科学会として参画する JpGU の教育関係委員会で，以下の活動を行ったことを報告　(期間：2018 年 5 月 20 日～8 月末).
   ・教育検討委員会として，1) 2018 年 6 月期の学術会議　地球惑星科学委員会　人材育成分科会　地学・地理学初等中等教育検討小委員会に委員を２名派遣（うち１名は当委員会委員の宮嶋）。これからの地球惑星科学教育発展のために提言を作成予定，2) 教員免許状更新講習を開催，3)京大防災研究所　研究集会「地学教育の展望－来たるべき南海トラフ地震に備えて－」（8 月 25・26 日）への運営協力。
   ・教育課程小委員会として，JpGU 大会　一般公開セッション「これからの地球惑星科学教育　－「地理総合」と「地学基礎」」を企画し運営
   ・委員による活動として，JpGU 大会や地学教育学会での「埼玉から地学　地球惑星科学実習帳ＣＤ版」の頒布や，所属機関での地学試料鑑定イベントへの参加協力を行った。

【9】博物館委員会報告（坂野委員長）

1. 2017年9月12日第1回定例理事会での報告内容
   北川隆司鉱物コレクション巡回展は，最後の巡回地となる産業技術総合研　究所地質標本館で開催（7 月 11 日～10 月 1 日：JAMS 後援）である。その後，コレクションは所有者へ返却される予定である。
2. 2018年5月19日第2回定例理事会での報告内容
   故北川隆司会員（広島大学教授，1949 年～2009 年）が収集した鉱物コレクションを 2013 年から 2017 年にかけて開催した巡回展について「北川隆司鉱物コレクション巡回展(2013 年～2017 年)の報告」としてまとめました。現在，「岩石鉱物科学」2018 年 47 巻 2 号 92b-94 と岩石鉱物科学電子ジャーナルに公開されています。

【10】研究部会報告：研究部会「岩石－水相互作用」

1. 2017年9月12日第1回定例理事会での報告内容
   運営細則により、研究部会は毎年代表者氏名・連絡先・活動内容・所属する研究部会員の氏名等必要事項を理事会に報告する。」ことと規定されていますので、以下に報告します。
   代表者氏名：土屋範芳　活動内容：年会におけるセッション企画，情報交換　　所属する研究部：岩石－水相互作用
   代表者　土屋範芳、幹事　奥山康子、幹事　藤本光一郎、幹事　河上哲生,
   宇野正起，岡本　敦，掛川　武，最首花恵，佐脇貴幸，中田英二，水田敏夫，東野文子，柳澤教雄，山田亮一
2. 2018年5月19日第2回定例理事会での報告内容
   世話役　◎土屋範芳　，奥山康子，藤本光一郎，河上哲生
   <報告内容>
   日本鉱物科学会2017年年会（愛媛大学）でのスペシャル　セッション「岩石－水相互作用」Water Rock Interaction開催報告
   ＜趣旨と概要＞　本トピックセッションでは，「岩石－水相互作用」に関わる分野横断的な研究発表，情報交換を推進すべく，「みず」をキーマテリアルにして，地殻流体のキャラクタリゼーション，変成岩，火成岩との反応プロセス，熱水変質，鉱床，熱水実験，さらに流体の発生や移動プロセス，地殻内での流体の存在形態など基礎理論と実験に関する講演を広く募集する．研究の方法も，野外観察，実験，数値計算，モデリングなど多様な発表を期待し，地球プロセスにおける「みず」の役割を学際的に検討する．あわせて，除染の鉱物科学，放射性廃棄物地層処分，二酸化炭素の地層隔離，島弧システムと地熱エネルギーなどの地下利用に関する講演も募集する．

【11】会員報告(佐藤会員幹事・理事)

会員減少について特務幹事や関係者とWGを立ち上げて審議しており，継続していきます。

過去会員推移 (平成19年統合から平成30年9月3日まで)

過去会員推移													2018年9月3日まで
	2007年9月20日	2008年9月21日	2009年9月9日	2010年9月23日	2011年9月8日	2012年9月19日	2013年9月11日	2014年9月18日	2015年9月25日	2016年9月24日	2017年8月12日	2017年9月12日	2019年9月3日
一般正会員(R)	892	886	865	846	840	702	686	672	652	628	598	602	583
シニア会員(RS)						139	142	148	154	171	175	175	178
学生正会員(S)	78	76	78	68	88	103	94	87	88	83	81	83	84
永年会員(L)	39	36	33	37	39	37	40	41	36	34	35	35	35
名誉会員(H)	11	9	9	7	7	7	6	6	13	13	17	17	16
会員合計	1020	1009	985	958	974	988	968	954	943	929	906	912	896

平成29年度の変動-入会36＋復活4－退会者等56(退会43-物故4-停止7-不明2)＝－16

【12】会長・副会長候補者推薦委員会報告(黒澤委員長・理事)

2018年5月19日第2回定例理事会での報告内容
会長副会長候補者推薦委員会では、審議の結果、本人の承諾を得て
会長候補者として、　榎並　正樹　会員
副会長候補者として、宮脇　律郎　会員
を選定し，5月18に選挙管理委員会に届けました。
なお，役員選出内規では，選挙実施年の4 月20 日まで届けることに規定されていますが，会長副会長候補者推薦委員会での審議期間など考慮したスケジュールに規約の変更をお願いしたいとの報告があり，細則等検討委員会で検討することになった。

【13】選挙管理委員会報告（選挙管理委員会　委員 大内智博，坂巻竜也報告者，則武史哉）

1. 2018年5月19日第2回定例理事会での報告内容（実施結果，公示日変更，投票開始日変更希望報告）
会長候補者として1名，副会長候補者として1名，理事候補者として39名、監事候補者として１名の届出がありました。
役員規約に沿って実施開始し，投票日の3ケ月前の選挙アナウンス間に合いましたが，投票日から1ケ月前に学会HPへ候補者氏名公示をすると選挙期間が短くなる状況になりましたので，今回の選挙投票日についてのみ，理事会で規約改正をお願いした。
下記の提案は黒澤理事からなされ，第2回理事会で審議され提案通り承認され，選挙が実施できた。
（今回のみ時限的変更案）　選挙は隔年6月に行い　⇒　(変更)選挙は隔年6月から7月中にかけて
2. 2018年9月3日第3回定例理事会での報告内容
6月29日から7月17日までに投票があった一般社団法人日本鉱物科学会の次期役員選挙結果について以下の様な結果(後記の審議事項に記載)となりましたので報告します。下記定款に従い，理事と監事は平成30年9月20日に開催される定時総会にて選任され，会長，副会長は同日の第1回定例理事会にて選定されます。
定款抜粋（役員の選任）第20 条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。
2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
投票用紙発送総数　891（内訳　WEB　829　郵送62）
総投票数　201 (内訳　WEB　191　郵送　10)
無効投票　6（内訳　WEB　6　郵送　0)
有効投票　195（内訳　WEB　185　郵送　10）
開票日：2018年7月23日　立会人：西原　遊，栗林貴弘

【14】細則等検討委員会報告（大和田細則等検討特務幹事・理事）

1. 2017年9月12日第1回定例理事会での提案と審議結果の報告
＜議案＞役員選挙内規の一部改定について（継続審議）
下記選挙内規の第5項(3)の「2名以上を副会長候補者として選定する 」という「副会長候補の人数」について，任意団体の選挙のたびに選出に難航していた状況から，前委員長から提案があり継続審議となっていた件です。これは重要な案件ですので，前回の第3回理事会では決議をしないで提案のみとして，本日9月12日の第1回理事会まで継続審議することにしていました。決議をお願いします。
＜改定該当箇所＞
第5項　会長・副会長候補推薦委員会及び会長・副会長候補者推薦方法
(3) 会長・副会長候補者推薦委員会は，被選挙権を有する正会員，名誉会員の中から，本人の承諾を得て，1名以上を次期会長候補者および2名以上を副会長候補者として選定する.
今回，細則等検討委員会では，副会長選定方法について以下の2つの案を答申しますので決議をお願いします。
(1案)　副会長候補者は１名以上とする.
(2案)　副会長は投票で選ばず，会長の指名とする.
補足:　第5項の文は，選出方法が決まった後，その選出方法に沿った文言に修正する。
⇒　審議の結果，(1案)が承認された。
2. 2018年5月19日第2回定例理事会での提案と審議結果の報告
＜議案＞規約など見直しの件
土'山会長から提案があり，大和田細則等検幹事から以下の説明があった。
(1) 次期役員選挙に向けて役員選出内規改定
今回，会長，副会長候補者推薦委員会での選考期間が短期間であったことからスケジュールの見直しが必要と黒澤委員長から説明があり，今後検討していただきたいとのことでした。併せて，被選挙権者には現在名誉会員まで入っていますが，実際は現役の会員で候補者の推薦を検討しているので，「任期中に65歳を超える会員は被選挙権はない」ということ等も，明文化してはどうかなど検討することの是非。
(2) 慣例のWG設置などの規約化
現在の運営細則でも、ワーキンググループ設置について規定はなく、あるとすれば「第9条 会長は必要に応じ理事会の承認を経て、その他の委員会を置くことができる。」で拡大解釈してきたかもしれないが，任意団体での慣例でWGの設置が行われてきた経緯もあるので，明文化することはどうか，ということ。なお,「その他の委員会」にWGを含めるのか,「その他の委員会またはワーキンググループ」と記載するのか，または「ワーキンググループ設置」の規約を別途作成するのかなど。併せて他の委員会の様に人数，委員長，任期，解散など規定すべきかどうかの是非について。
⇒　審議の結果，検討を要するので，細則等検討委員会に諮問した。
3. 2018年9月3日第3回定例理事会での提案と審議結果の報告
＜議案＞役員選出内規の一部改正とWG設置の規約化について
第2回定例理事会に提案し継続審議となっていました，役員選出内規の一部改正とWG設置の規約化について，細則等検討委員会での数度のメール審議を行い，委員会としての改定案をとりまとめましたので，以下にその結果を答申いたします。
<1> 役員選出内規の一部改正
1) 選挙公示と選挙時期:
原案通り，「……選挙実施年の3月に公示する．選挙は隔年7月に行い，…」に変更する。
2) 選挙関係: 年齢制限はつけない．それ以外は修正案通り。
3) 次点者：原案通りとする。。
なお，監事について，定款第19条で監事は「２名以内」とあります．監事2名体制であれば，1名が何らかの理由で任期中に業務

遂行ができなくなっても問題は生じません．一方，１名の場合，不測の事態が起れば次点の方を監事とできます．そのような趣旨で「役員選出内規，15項」は記述されています．

役員選出内規（次点者）

15．(1) 理事または監事候補者選挙の次点者は，総会で理事または監事の補欠候補者として順位を付して議決するものとする．

(2) 理事または監事に欠員が生じた場合，理事または監事の補欠候補者の上位者より順に理事または監事として補充する．但し，補欠として選任された理事または監事の任期は，前任者の満了する時までとする．

<2>　ワーキンググループ（WG）の設置に関する規則について：特に設けない．

運営細則の第9 条では「会長は必要に応じ理事会の承認を経て、その他の委員会を置くことができる。」としています．この細則を根拠にWGを委員会の一つと解釈して運用します．

【補足と理事会への意見】

<1>　上記　2) 選挙関係について

理事の方が定年を迎えた場合，理事会や総会へ私費で出席する場合が考えられます．年齢制限をつけない場合，定年を迎えた理事の方の交通費をどうするかという問題が生じます．またこの件に関連して，会長，副会長，監事の理事会や総会への出席や重要な外部会議への出席についても交通費を支給するかどうか議論が必要だと思います．

このような交通費の規定を設けるかどうかについて，次回（9/3）の理事会に提案したいと考えています．

<2>　上記　3)次点者について

監事候補者が１名のみで次点者もいない場合，辞任等によって監事が欠けることとなっても後任監事が総会で選任されるまでは，辞任届提出後も監事としての職責を負います．一方，監事が死亡した場合など，後任監事を速やかに臨時総会で選任しなければなりません．監事候補者については，定款に沿って２名を選出する努力が今後必要であることを理事会へ提案したいと考えています．

【15】三鉱連絡会議報告（中村庶務幹事・理事）

JpGU2018開催期間中の2018年5月20日に開催した三鉱連絡会議について報告します。

出席者：JAMS: 土'山会長，中村庶務幹事，SRG：森下会長，藤本常務委員長　合計4名

・三鉱名簿（2013年以降、改訂されていない）は、今後は作る必要ないと。

・現在（連絡会当時）、パスワードを入れるとwebで閲覧できるが、個人情報漏洩の恐れがあるので、ネット上の三鉱名簿の閲覧をできなくするとともに，元のデータを廃棄する。

・名簿は作らなくても，セッションやシンポジウムの共催，行事の乗り入れなど，鉱物科学会との連携は今後も進める。

以上を確認した。名簿の対応については第3回理事会で審議する。

【16】その他

1)　JpGU学協会長会議報告(土'山会長)

2018/5/22に開催された学協会長会について、簡単に報告しておきます。

日本鉱物科学会が学協会長会の幹事学会になりました。今から１年間の任期です。

幹事学会として具体的に何か協議することは今の所何もないということですが、JpGUの理事会にオブザーバー参加の資格があるということでした。

その他、今後３年間のJpGUの開催スケジュールの紹介、各学会の会員減少に関する意見交換などがありました。その後第3回理事会出席案内があったが，JpGU事務局から，希望があれば出席して，出席は必須ではない旨連絡があった。

2)『日本の国石「ひすい」―バラエティに富んだ鉱物の国―』報告（土'山会長）

2017年9月12日の第1回定例理事会において，その後の出版社との協議について報告がなされ，当学会と出版社とで買取はないこと，学会からの支出がないことなどの条件が整い問題ないとのことから審議の上，当学会監修の単行本として刊行が承認された。

5月19日の第2回理事会では，2018年年会開催時には刊行したいとよてが報告されたが，予定していた山形大学の2018年年会開催までの刊行には間に合わないが，可能であれば10/5を目途にできるだけ早い刊行を目指していると報告があった。

3)「岩石・鉱物の日」制定の件（土'山会長）

2018年5月19日の第2回理事会にて，国石選定事業の一貫として、鉱物・岩石の日の選定を行いたいと土'山会長からの提案があった。

<理由＞Webで調べたところ石の日はあるが、鉱物や岩石の日というのは見当たらない。国石の定着だけでなく、鉱物や岩石をもっと知ってもらうためにも、鉱物・岩石の日の選定をおこないたい。

その後，2018年9月3日の理事会では，具体的には、WGを作り、決め方も含めて議論する。「国石」の制定と同様に、広く意見をきいてもう少し時間をかけて行く、ということでお願いしようということになり，従って、今回はWGの選出も見合わせました。

今後次期第1回理事会に延期して宮脇さんが中心になってやることで，継続審議としていただきたいということになった。

Ⅱ．平成30年度（一般社団法人第Ⅲ期）事業計画書及び収支予算案などの件

(1)平成30年度事業計画紹介　　（土’山会長）

編集事業：岩石鉱物科学、Journal of Mineralogical and Petrological Sciencesの発行

行事事業：2019年年会（九州大学）の開催と平成30年度定時社員総会の開催

各賞の表彰事業

その他本会の目的を達成するために必要な事業

(2) 平成30年度収支予算紹介　(17頁に掲載)（栗林会計幹事）

Ⅲ．その他

決議事項

Ⅰ. 第1号議案　平成29年度（一般社団法人第Ⅱ期）決算承認の件

（説明：栗林会計幹事，　監査報告：小山内監事）

1. 平成29年度（一般社団法人第Ⅱ期）決算について(栗林会計幹事)

(1)貸借対照表　(18頁)
(2)正味財産増減計算書（19頁）
(3)財務諸表に対する注記　(20頁)
(4)附属明細書　(20頁)

2.監査報告(小山内監事)

21頁の監査報告書の通り。

Ⅱ. 第2号議案　役員（理事、監事）選任の件（選挙管理委員）

一般社団法人日本鉱物科学会　選挙管理委員会　委員 大内智博，坂巻竜也，則武史哉

6月29日から7月17日までに投票があった一般社団法人日本鉱物科学会の次期役員選挙結果について以下の様な結果となりましたので報告します。下記定款に従い，理事候補者と監事候補者は平成30年9月20日に開催される定時総会にて選任されます。なお，会長，副会長は同日の第1回定例理事会にて選定されます。

定款抜粋（役員の選任）第20 条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。
2 会長及び副会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

投票用紙発送総数　891（内訳　WEB　829　郵送62）
総投票数　201（内訳　WEB　191　郵送　10）
無効投票　　6（内訳 WEB　　6　郵送　　0）
有効投票　195（内訳 WEB　185　郵送　10）
開票日：2018年7月23日　立会人：西原　遊，栗林貴弘

下記理事候補者22名,理事次点候補者1名,監事候補者1名について,一人ずつ氏名を読み上げそれぞれについて諮ります。

理事	氏　名	所　　属	研究分野
1	榎並　正樹	名古屋大学宇宙地球環境研究所	岩石学･ラマン分光分析学
2	宮脇　律郎	国立科学博物館	鉱物学、結晶学、結晶化学
3	安東　淳一	広島大学大学院理学研究科	岩石鉱物変形物性
4	阿部　なつ江	海洋研究開発機構	かんらん岩岩石学、岩石物性、海洋底科学
5	井上　　徹	広島大学大学院理学研究科	地球内部物性、高圧地球科学
6	大藤　弘明	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター	鉱物学，電子顕微鏡，高圧地球科学
7	大和田　正明	山口大学大学院創成科学研究科	岩石学(火成岩)
8	鍵　　裕之	東京大学大学院理学系研究科	地球内部物質科学
9	川本　竜彦	京都大学大学院理学研究科地球熱学研究施設	水とマグマ
10	河上　哲生	京都大学大学院理学研究科	岩石学
11	黒澤　正紀	筑波大学大学院生命環境科学研究科	鉱物学
12	辻森　　樹	東北大学東北アジア研究センター	変成岩岩石学
13	土屋　範芳	東北大学大学院環境科学研究科	地殻流体科学，環境地質学
14	富岡　尚敬	海洋研究開発機構高知コア研究所	惑星物質科学、高圧鉱物学
15	中村　美千彦	東北大学大学院理学研究科	岩石学，火山学
16	永井　隆哉	北海道大学大学院理学研究院	鉱物物理化学
17	永嶌　真理子	山口大学大学院創成科学研究科	鉱物学･結晶化学
18	長瀬　敏郎	東北大学学術資源研究公開センター総合学術博物館	鉱物学
19	伴　　雅雄	山形大学理学部	火山岩岩石学、火山学
20	森下　知晃	金沢大学理工研究域地球社会基盤学系	岩石学
21	圦本　尚義	北海道大学大学院理学研究院	鉱物学
22	吉朝　　朗	熊本大学	鉱物結晶学、鉱物物性
次点	髙澤　栄一	新潟大学自然科学系(理学部)	火成岩岩石学
	氏　名	所　　属	研究分野
監事	平島　崇男	京都大学大学院理学研究科	変成岩岩石学

Ⅲ．第3号議案　会員会費規定の一部改定の件（土'山会長）

会員増に向けて、シニア会員の経費負担削減を行い、より長く会員として留まっていただく方向で会員区分等検討WGで検討を行ってきた結果，シニア会員会費軽減案として，以下の様に，「Elements冊子体の受領およびその電子ジャーナルアクセス権の付与を辞退する」規定を会員会費規定第5条に加筆することを総会に提案します。(会費は総会において定めると定款で規定されていますので，総会普通決議が必要となります。)
以上から，下記「会員会費規定第5条に第2項を加筆する案」についてご審議をお願いします。

定款より（入会金及び年会費）
第7 条 本会の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、正会員、賛助会員及び名誉会員は、
総会において別に定める年会費を支払わなければならない。
会員会費規程より
第7 条 この規程の改廃は、第5条については総会の決議、それ以外の条項は理事会の決議によるものとする。

＜現行　会員会費規程＞
（年会費）
第5条 本会の会員は、会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。
（1）電子版及び冊子版を購読する会員：一般会員10,000円、学生会員5,000円、シニア会員8,000円、名誉会員及び永年会員1,000円
（2）電子版のみを購読する会員：一般会員9,000円、学生会員4,000円、シニア会員7,000円，名誉会員・永年会員：無料
（3）賛助会員：1口20,000円

＜改正案　会員会費規程＞　会員会費規定第5条に第2項を加筆する
（年会費）
第5条 本会の会員は、会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。
(1）電子版及び冊子版を購読する会員：一般会員10,000円、学生会員5,000円、シニア会員8,000円、名誉会員及び永年会員1,000円
(2）電子版のみを購読する会員：一般会員9,000円、学生会員4,000円、シニア会員7,000円，名誉会員・永年会員：無料
(3）賛助会員：1口20,000円
⇒2 シニア会員は、申し出によって、本規定第3条（1）の会誌等に含まれているElements冊子体の受領およびその電子ジャーナルアクセス権の付与を辞退することができる。その場合のシニア会員の会費は、第5条（１）電子版及び冊子版を購読するシニア会員は6,000円、(2）電子版のみを購読するシニア会員は5,000円となる。

注)この規定改正を2018年9月20日の総会で承認された場合は、会計期間の都合上、2019年8月1日からの会計年度の会費徴収から適用することとする。なお，シニア会員から辞退の申し出があった場合に適用する。

各賞授賞式　（中村庶務幹事・理事）

【1】平成29年度日本鉱物科学会賞授与　（推薦理由書：川本委員長）

第18回受賞者：海野　進　会員
業績題目：無人岩質マグマの成因と海洋プレートの生成・進化過程の研究
第19回受賞者：糀谷　浩　会員
業績題目：熱測定と分光学的手法によるマントル鉱物の熱力学的性質及び結晶構造に関する研究

【2】渡邉萬次郎賞授与　（推薦理由書：宮島委員長）

第34回受賞者：加藤祐三　名誉会員

【3】平成29年度日本鉱物科学会論文賞授与　（推薦理由書：中村委員長）

第19回受賞論文
Title: UHT granulites of the Highland Complex, Sri Lanka I: Geological and petrological background.
および
Title: UHT granulites of the Highland Complex, Sri Lanka II: Geochronological constraints and implications for Gondwana correlation.
Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 111-3, 145-156 (2016)および111-3, 157-169 (2016).
受賞者：小山内康人　会員，中野伸彦　会員，北野一平　会員，　足立達朗　会員

【4】平成29年度日本鉱物科学会研究奨励賞授与　（推薦理由書：三河内委員長）

第23回受賞者：鹿山雅裕　会員
研究対象：「カソードルミネッセンスによるケイ酸塩鉱物構造欠陥の定量評価と地球惑星科学への応用」
第24回受賞者：新名良介　会員
研究対象：「高温高圧実験を用いたマントル深部鉱物の物理・化学的性質の研究」

【5】平成29年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与　（推薦理由書：鈴木委員長）

第 11 回受賞者：森本和也　会員
題目：「機能性層状複水酸化物の合成とその機能性材料への応用」

【6】平成29年度櫻井賞　推薦理由書：松原委員長）

第44回受賞者：高井康宏　会員
対象鉱物：肥前石

【7】平成29年度JMPS 学生論文賞授与　（推薦理由書：平島委員長）

第5回受賞論文：Detrital zircon provenances for metamorphic rocks from southern Sør Rondane Mountains, East Antarctica: A new report of Archean to Mesoproterozoic zircons
受賞者：北野一平　会員　投稿時：九州大Ｄ2
第6回受賞論文：Cation ordering of {110} and {211} sectors in Grandite garnet from Mali
受賞者：中村 友梨江 会員 投稿時：東北大D2

平成30年度会計収支予算（平成30年8月1日～平成31年7月31日）		
科　　目		
収　入　の　部	H29年度予算	H30年度予算
会 費 収 入	**7,980,000**	**8,038,000**
一般会員	5,000,000	4,860,000
シニア会員	1,100,000	1,300,000
学生会員	350,000	365,000
永年・名誉会員	20,000	23,000
購読会員	850,000	850,000
賛助会員	260,000	240,000
前年度分	400,000	400,000
出 版 物 収 入	**2,000,000**	**2,000,000**
和文誌(GKK)収入	250,000	250,000
英文誌(JMPS)収入	1,750,000	1,750,000
広 告 収 入	**40,000**	**40,000**
年 会 収 入	**2,600,000**	**2,200,000**
雑 収 入	**70,000**	**70,000**
事業活動　収入	**12,690,000**	**12,348,000**
事業活動前年度繰越金	**5,044,372**	**5,216,569**
事業活動費　小 計①	**17,734,372**	**17,564,569**
特定資産前年度繰越金　②	**7,092,620**	**6,675,790**
学会誌等刊行基金 前年度繰越金	3,476,958	3,476,982
学会賞・奨励賞・論文賞基金前年度繰越金	1,390,490	1,147,741
渡邉萬次郎賞基金 前年度繰越金	100,512	10,948
国際学会・年会基金前年度繰越金	2,124,660	2,040,119
③ 収　入　合　計　①+②	**24,826,992**	**24,240,359**
支　出　の　部	H29年度予算	H30年度予算
刊　行　費	**4,332,400**	**4,342,400**
GKK印刷本冊費	1,000,000	1,000,000
JMPS印刷本冊費	1,900,000	1,900,000
GKKその他印刷費	200,000	200,000
JMPSその他印刷費	500,000	500,000
通信運搬費	400,000	300,000
支払リース料		110,000
英文校閲費	300,000	300,000
J-Stage投稿システムEM利用料	32,400	32,400
集　会　費	**2,710,000**	**2,310,000**
年会開催費	2,600,000	2,200,000
会議費	110,000	110,000
学会賞副賞(特定資産からの支出)		**347,000**
鉱物学会賞記念品費	**350,000**	70,000
研究奨励賞・応用鉱物科学記念品		60,000
論文賞記念品		10,000
受賞者懇親会費		40,000
受賞者参加費		12,000
渡邉萬次郎賞記念品		55,000
発表賞支援金		100,000
Elements 講読会費	**1,500,000**	**1,500,000**
管　理　費	**5,307,400**	**5,603,900**
支払報酬	**356,400**	399,600
租税公課	**1,000**	12,000
法人税、住民税及び事業税	**100,000**	77,300
給料手当	**3,200,000**	3,400,000
法定福利費	480,000	480,000
旅費交通費通勤手当	375,000	375,000
臨時雇賃金	150,000	150,000
旅費交通費出張費	150,000	90,000
水道光熱費	20,000	20,000
地代家賃	65,000	65,000
通信費電話回線料	120,000	120,000
通信費郵送料など	50,000	50,000
送金手数料	110,000	110,000
消耗品費PC関係	20,000	20,000
消耗品費コピー利用代	40,000	40,000
消耗品費その他	50,000	50,000
雑費	20,000	20,000
鉱物ポスター代(特定資産から支出)	学会賞副賞に含まれていた	40,000
支払寄付金(特定資産から支出)		50,000
ＹＭＯ補助(特定資産から支出)		35,000
事業活動　支出　小計④	**13,849,800**	**14,103,300**
次年度繰越金合計　③-④	**10,627,192**	**10,137,059**
支　出　合　計	**24,826,992**	**24,240,359**

(1)貸借対照表

貸借対照表

2018年7月31日現在

一般社団法人日本鉱物科学会

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
１．流動資産			
現金預金	5,642,569	5,450,372	192,197
流動資産合計	5,642,569	5,450,372	192,197
２．固定資産			
(1) 特定資産			
学会賞等刊行基金	3,476,982	3,476,958	24
学会賞・奨励賞・論文賞基金	1,147,741	1,390,490	△ 242,749
渡邉萬次郎賞基金	10,948	100,512	△ 89,564
国際学会・年会基金	2,040,119	2,124,660	△ 84,541
特定資産合計	6,675,790	7,092,620	△ 416,830
固定資産合計	6,675,790	7,092,620	△ 416,830
資産合計	12,318,359	12,542,992	△ 224,633
Ⅱ　負債の部			
１．流動負債			
前受会費	426,000	406,000	20,000
預り金	80,358	87,055	△ 6,697
未払法人税等	77,300	78,500	△ 1,200
流動負債合計	583,658	571,555	12,103
負債合計	583,658	571,555	12,103
Ⅲ　正味財産の部			
１．一般正味財産	11,734,701	11,971,437	△ 236,736
（うち特定資産への充当額）	(6,675,790)	(7,092,620)	(△ 416,830)
正味財産合計	11,734,701	11,971,437	△ 236,736
負債及び正味財産合計	12,318,359	12,542,992	△ 224,633

(2)正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

2017年8月1日から2018年7月31日まで

一般社団法人日本鉱物科学会

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
会費収入	8,622,112	7,726,172	895,940
一般会員	5,149,500	5,221,000	△ 71,500
学生会員	339,000	366,000	△ 27,000
シニア会員	1,242,000	1,155,000	87,000
永年・名誉会員	20,000	21,000	△ 1,000
購読会員	745,212	843,172	△ 97,960
賛助会員	260,000	120,000	140,000
前年度分会費	866,400	0	866,400
出版物収入	2,761,800	2,307,410	454,390
広告収入	30,000	30,000	0
年会収入	2,853,500	2,963,000	△ 109,500
参加費	1,430,000	1,666,000	△ 236,000
懇親会費	646,000	792,000	△ 146,000
受取広告料	0	170,000	△ 170,000
展示料収入	180,000	0	180,000
受取助成金	590,000	300,000	290,000
事前講演要旨集代	0	35,000	△ 35,000
キャンセル料	7,500	0	7,500
受取寄附金	0	9,000	△ 9,000
雑収入	87,437	71,911	15,526
著作権料収入	87,350	71,856	15,494
受取利息	87	55	32
経常収益計	14,354,849	13,107,493	1,247,356
(2) 経常費用			
刊行費	5,036,947	4,831,500	205,447
印刷製本費	4,042,250	4,160,726	△ 118,476
通信運搬費	490,063	416,725	73,338
支払リース料	111,456	74,304	37,152
英文校閲費	360,778	147,345	213,433
J-Stage-EM利用料	32,400	32,400	0
集会費	2,148,693	2,768,565	△ 619,872
年会開催費	2,068,587	2,658,845	△ 590,258
会議費	76,960	109,720	△ 32,760
雑費	3,146	0	3,146
学会賞副賞	332,325	300,070	32,255
鉱物学会賞記念品費	70,000	70,000	0
研究奨励賞記念品	60,756	60,640	116
論文賞記念品	8,005	8,380	△ 375
受賞者懇親会費	54,000	35,000	19,000
受賞者参加費	6,000	12,000	△ 6,000
渡邉萬次郎賞記念品	83,564	64,050	19,514
発表賞支援金	50,000	50,000	0
Elements購読会費	1,485,646	1,513,683	△ 28,037
管理費	5,510,674	4,892,032	618,642
給料手当	3,198,164	2,840,564	357,600
臨時雇賃金	205,750	81,500	124,250
法定福利費	509,857	344,050	165,807
旅費交通費	549,770	498,190	51,580
通信運搬費	235,150	154,458	80,692
水道光熱費	19,131	18,518	613
地代家賃	61,863	61,863	0
消耗品費	192,266	458,621	△ 266,355
ポスター印刷費	0	37,368	△ 37,368
支払報酬料	356,400	178,200	178,200
支払手数料	97,198	111,861	△ 14,663
租税公課	200	2,500	△ 2,300
支払寄付金	50,000	50,000	0
YMO補助	34,560	34,560	0
雑費	365	19,779	△ 19,414
経常費用計	14,514,285	14,305,850	208,435
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 159,436	△ 1,198,357	1,038,921
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 159,436	△ 1,198,357	1,038,921
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
任意団体受取寄附金	0	13,248,300	△ 13,248,300
経常外収益計	0	13,248,300	△ 13,248,300
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	13,248,300	△ 13,248,300
税引前一般正味財産増減額	△ 159,436	12,049,943	△ 12,209,379
法人税、住民税及び事業税	77,300	78,506	△ 1,206
当期一般正味財産増減額	△ 236,736	11,971,437	△ 12,208,173
一般正味財産期首残高	11,971,437	0	11,971,437
一般正味財産期末残高	11,734,701	11,971,437	△ 236,736
Ⅱ　正味財産期末残高	11,734,701	11,971,437	△ 236,736

(3)財務諸表に対する注記

財務諸表に対する注記

一般社団法人日本鉱物科学会

１．重要な会計方針
（1） 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

２．特定資産の増減額及びその残高
特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
学会誌等刊行基金	3,476,958	24	0	3,476,982
学会賞・奨励賞・論文賞基金	1,390,490	12	242,761	1,147,741
渡邉萬次郎賞基金	100,512	0	89,564	10,948
国際学会・年会基金	2,124,660	19	84,560	2,040,119
小　　計	7,092,620	55	416,885	6,675,790
合　　計	7,092,620	55	416,885	6,675,790

３．特定資産の財源等の内訳
特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科　　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
特定資産				
学会誌等刊行基金	3,476,982	(0)	(3,476,982)	(0)
学会賞・奨励賞・論文賞基金	1,147,741	(0)	(1,147,741)	(0)
渡邉萬次郎賞基金	10,948	(0)	(10,948)	(0)
国際学会・年会基金	2,040,119	(0)	(2,040,119)	(0)
小　　計	6,675,790	(0)	(6,675,790)	(0)
合　　計	6,675,790	(0)	(6,675,790)	(0)

４．補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
コンベンション開催助成金	（公財）松山観光コンベンション協会	0	590,000	590,000	0	―
合　　計		0	590,000	590,000	0	

(4)附属明細書

附属明細書

一般社団法人日本鉱物科学会

１．特定資産の明細

特定資産については財務諸表に対する注記に記載しているため、附属明細書での記載を省略している。

２．引当金の明細

該当なし。

監査報告書

平成３０年９月３日

一般社団法人日本鉱物科学会
代表理事　（会長）　土山　明　殿
代表理事（副会長）榎並　正樹　殿

一般社団法人日本鉱物科学会
監事　小山内　康人

私監事は，平成２９年８月１日から平成３０年７月３１日までの一般社団法人日本鉱物科学会第Ⅱ期事業年度における会計及び業務の監査を行いました。
その結果につき次の通り報告します。

１．　監査の方法の概要

（１）会計監査について，帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書の適正性を検討しました。

（２）業務監査については，理事会及びその他の重要な会議に出席し，理事から業務の執行状況について聴取し，関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて，理事の業務執行の妥当性を検討しました，

2.　監査結果

（１）計算書類及び付属明細書は，一般社団法人日本鉱物科学会の財政及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます，

（２）事業報告書は，法令及び定款に従い一般社団法人日本鉱物科学会の状況を正しく示しているものと認めます。

（３）理事の業務の執行に関し，不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

3.　意見

継続的な赤字予算の設定は法人として正常な運営とはいえなく，適正性を欠くと思われる。現在もいろいろ検討されているところであるが，収入増を図るために 1) 会員増，2) 会費増収(値上げ)，3) 年会費増収(値上げ)などで抜本的改革を検討をしてほしい。
例えば，Elements 購読費を学会会計で負担することは既に現実として不可能に近づいてきており，この学会負担分(US$15 約 2,000 円)を会費値上げするなどして，適正な財政状況にすることを目指し，具体的に検討してほしい。

以上